

CHIP (complex higher-risk indicated patient) ～セッション企画の狙いと見どころ～

東京ベイ・浦安市川医療センター 循環器内科 | 小船井光太郎

はじめに

欧米から始まったCHIPインターベンションという概念が、ここ数年で本邦にも大きく広まり、多くの学会や研究会で議論が交わされるようになってきた^{1,2)}。今回のCVIT 2023では、7つのCHIPセッションが企画されているのでここで紹介する。

CHIP (チップ) とは

CHIPとはComplex Higher-risk Indicated Patientの頭文字を取った略語であり、直訳すると「複雑でリスクが高く、適応のある患者」ということになる。「Complex」という単語には、治療対象が複雑病変であるという意味合いが強いが、同時に患者背景が複雑でもあることも意図している。「Higher-risk」に関しては、PCI周術期を含む血行再建における合併症リスクや、院内死亡などに代表される短期から中期のハードエンドポイントの発生するリスクが高いことを意味している。「Indicated」はPCIの適応があるということを示し、そこには心原性ショック、虚血性心不全のため入退院を繰り返す、退院できない、冠動脈

バイパス術がハイリスクのために行うことができない、などの理由が多い。最後の「Patient」にあるように、これらハイリスク患者をいかに工夫して最良の方法で救うことができるか、理論や実際の症例を共有しディスカッションを行うのがCHIPセッションの狙いである(図1、2)。

CVIT CHIPコースの概要

8/5(土)の第8会場は、朝から夕方までCHIPの注目セッションが目白押しである。ここで1日学ぶことによって、CHIPオペレーターやCHIPチームメンバーとして大きく成長が期待できるであろう(図3)。

1. CHIP集中治療チームでハイリスク患者を救う

CHIPにはチーム医療が重要であり、そこにはPCIを行うインターベンション医のみではなく、多領域の専門家によって構成されるMultidisciplinary team-based approachが必須である。日本のCHIP患者はいわゆるCCUの環境で、インターベンション医が中心となり集中治療が行われているのが現状である。今回の企画では日本集中治療医学会との合同セッション

ンとして、呼吸器・集中治療スペシャリストや緩和ケアスペシャリストの立場からのCHIP患者の治療戦略をご講演頂き、最良のCHIP治療チームについて議論したい。

2. EPELLA ～大いなる可能性と、実際の適応・管理～

重度心不全・心原性ショック患者に、ECMOとImpellaの併用による循環補助が使われる機会が増えてきている。知見やエビデンスも徐々に蓄積されてきているとはいえ、まだまだEPELLA運用は手探りの部分もあり、また合併症リスクも高いことが知られている。ここでは、現在存在するエビデンス、運用の実際、今後の展望などについてEPELLAエキスパートが集い、熱いディスカッションを繰り広げる。

3. Unloading for What? ～ハイリスクインターベンションにおけるImpellaの立ち位置～

Impellaによる補助循環を行える施設も順調に増加し、多くの心原性ショック・ハイリスク症例でImpellaが使われるようになった。このセッションでは、日米のImpellaエキスパートをお招きし、最新エビデンスレビューや実際の運用について